わが街わが故郷

旭精工株式会社
東京支社とその周辺

会社名　旭精工株式会社　東京支社
所在地　〒140 - 0001
東京都品川区北品川３－６－２
品川MSビル７階
電話番号　03-3471-9441

当事業所は、1950年（昭和25年）東京都中央区銀座八丁目に東京出張所として開設され、以来何度か移転・呼称変更の後、平成元年、現在の場所に東京支社の営業・業務部門を移転し、今日に至っております。

営業地域は、関東（１都６県）、山梨県、新潟県、長野県の一部で、ベアリングユニット、エアークラッチ・ブレーキ、直線運動機器等の販売をいたしております。

さて、この度本誌に掲載の機会を得ましたので、当事業所周辺の紹介をさせていただきます。

東京・品川

① 地名“品川”の由来について

目黒川の河口を中心に発達した集落につけられた名前で、元暦元年(1184年)の田代文書に初めて登場します。その由来については、目黒川の古名が品川と呼ばれていたとする説と、上無川（神奈川の語源）に対して下無川（しもなしがわ）が略されて品川になったとする説など、諸説あるそうです。

② 弊社の位置する北品川には、国道15号線（第一京浜）八ツ山橋から、これに沿うように南に向かって、北品川商店街を通り目黒川に架かる品川橋を渡り、南品川・東大井を抜けて南大井の鈴ヶ森まで続く“旧東海道”が、当時と同じ道幅で残っており、今現在も大変賑わっています。この旧東海道の品川宿とその周辺について紹介させていただきます。

③ 東海道品川宿は、江戸から出る諸街道のうち最も重要視された東海道一番目の宿（1601年指定）であり、江戸の南の遊び場所で、遊郭もあれば行楽地もあり、季節によっては潮干狩りもできる宿場町として栄え、当時、宿内の家々1600軒、住人7000人という活気あふれる地でありました。

また品川宿は東海道第一の規模で、東海道で江戸へ入る前にここで一泊して、旅の“垢”を落とす人も多く、近くには桜の御殿山、紅葉の海晏寺(かいあんじ)、品川神社など、江戸では屈指の名所でありました。さらに、江戸の遊所としても有名で、北の吉原に対して品川は南といわれ遊興の場所として吉原に次ぐ施設と品格を持っていました。飯盛り女という名目で旅籠に遊女を置くことを許されたのは品川宿が最初で、明和以降は定員500名の飯盛女が認められ

賑わったと伝えられております。

さて、このころの宿泊費（旅籠屋代）はいくらくらいだったでしょうか。「東海道中膝栗毛」が出版された享和２年（1802）ころの旅籠屋代は200文（1800円）だったそうで、これが２食付の値段ですから、現在と比較すると、信じられないくらい安いと言えます。ただし、当時大工の日当が350文（3150円）だったことを考えれば決して安いとは言えない金額のようです。

では遊女と遊ぶときの値段はいかほどだったでしょうか？これにつきましては時代を考慮いたしまして今回は見送りといたしましょう。

北品川・東品川周辺の紹介

① 御殿山下砲台（現 台場小学校）

台場小学校の敷地は五角形で、校庭にはお台場の石垣だった石があります。

嘉永６年（1853年）、アメリカのペリー艦隊来航を機に、これに驚いた幕府は品川沖に11の砲台を築きました。その一つが台場小学校の敷地に五角形の台場の形で残されています。現在はその台座の跡に別の台場にあった“品川灯台”が建てられています。

② 品川浦（船宿通り）

漁師町の面影が残る釣り船や屋形船の発着場として賑わっております。東京湾でのハゼ釣りや、夏は納涼船としてお台場沖に停泊し、レインボーブリッジを見ながらの宴会、また隅田川の花見や花火大会見物など人気が高く混雑しますので早めの予約が必要です。費用は約２時間半で食事付き一人一万円が標準です。

また、人気映画“釣りバカ日誌”の撮影場所としても有名。私自身も、主役の西田敏行が撮影中の現場を何度か見ています。

③ 鯨塚

江戸時代、品川沖に迷い込んだ鯨の骨が埋められた塚。当時、江戸中の評判となり、瓦版も発行されたくらいで、浜離宮まで引っ張って十一代将軍家斉に見せたと言われています。

まさか東京湾に鯨などと思いますが、つい最近、千葉市沖に鯨が入りこんでニュースになっていましたから、意外でもないようです。

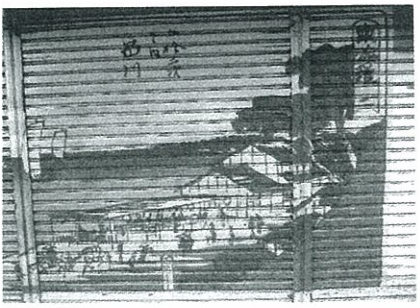
④ 品川神社

源頼朝が鎌倉初期に創建した北品川の鎮守です。祭神は女性の“天比理乃咩命”（あめのひりのめのみこと）で徳川家ゆかりの社でもあり

ます。6月の大祭は北の天王祭と呼ばれ、53段の石段を神輿が上り下りする様が見もので、千貫神輿と呼ばれる大神輿は有名。境内には宝物殿や、神楽殿、富士塚があり、社殿の裏には幕末の土佐藩士、戊辰戦争や自由民権運動で名を馳せた板垣退助の墓もあります。

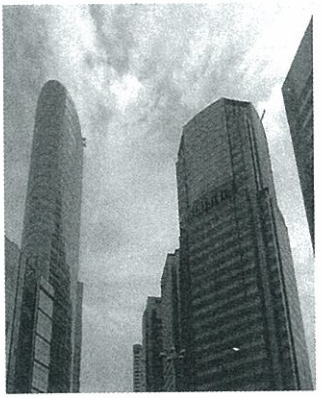
⑤ 北品川商店街・シャッターに浮世絵

旧東海道沿いにある北品川商店街には、店のシャッターに昔の浮世絵が描いてあります。また、ところどころに“お休み処”があり、セピア色をした昔の品川の珍しい写真がたくさん展示され、お茶のサービスもありますので、椅子に座って一休みすることができます。



⑥ 昔も今も交通の要所

品川駅は近年、特に港南地区の開発が進み、ここ数年間で10数棟の高層ビルが建設され、このビル群に勤務するサラリーマンは2万人とも言われ、駅中の開発も近代的に大きく変化し、



大変賑わっております。また、交通の面から見ますと、国道１号線（第二京浜国道）、国道15号線（第一京浜国道）と２本の幹線道路が南北に走り、山手通り、環状７号線、環状８号線がこれと交錯し、鉄道では東海道線、横須賀線、京浜東北線、山手線、地下鉄浅草線、三田線、京浜急行などの乗換え駅として大きな役割りを果たしてきましたが、さらに東海道新幹線品川駅の開業と“のぞみ”の停車、京浜急行の羽田空港乗入れや東京モノレールの天王洲アイル駅開業など、陸路・空路へのアクセスが大変便利になり、多くのビジネスマンを中心に利用されております。

（旭精工株式会社　東京支社　西村 武芳）